



TITLE:

雜纂

AUTHOR(S):

CITATION:

雜纂. 日本外科宝函 1932, 9(3): 660-681

ISSUE DATE:

1932-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/201776>

RIGHT:

雜 纂

第33回日本外科學會漫評 京大外科同人

1 評 議 員 會

評議員會ハ外科學會ノ政治ヲ司ル處デアルガ、併シ評議員ノ數ガ百以上モアツテ多過ギル様デアルシ、マタ其ノ質モ不適當ナノガ混淆シテ居ル様デアルカラ現任ノ各大學ヤ醫專ノ教授連ヲ中堅ニスル様ニ改造スルガヨカロウ。新會長ノ勇斷ヲ切望スル。

明年ノ宿題ノ豫選デアルガ、本年ハ流石ニ誰モ自分カラ豫メ會長ニ『私ニ此ノ宿題ヲヤラセテ下サイ』ナド申込デ居ツタ者ハ無カツタ様デアル。ヤツバリ唯ダ默々トシテ斯道ニダケ精進シテ居ル事が一般カラ認メラレテ、『自ラ求メズシテ却テ他カラ薦メラレル』トイフ様ナノガ品格ガアル。從テ其ノ報告ハ傾聴ニモ値スル譯デアル。

明年ハ「イレウス」トイフ事ニ決定シ、京城ノ小川教授ガ受持チ、東京ノ鹽田外科カラモ受持者ガ出ル事ニナツタ。所ガ三宅老教授ガ『阪大ノ岩永教授ニモ宿題ヲ報告サセテ呉レ』ト會長ニ申込マレタ様デアル。此ノ様ニシテ自分ノ舊門生ヲ誘掖シ、勉強サセ様トスル老教授ノ思召ハ有り難イ事デアツテ、『持ツベキモノハヨイ先生・ヨイ弟子・ヨイ友人デアル』トツクヅク感心サセラレタ。併シ岩永教授ハツイ先年腸結核ノ問題デ宿題ヲ報告シタ事ハ吾人ノ記憶ニモ新タナコトデアルシ、マタ他方面ニモ勉強シテ居ル事デアルカラ今度モマタ強テ宿題報告者トイフ事ニナラナクテモヨカロウト思フ。

次回開會地ノ豫定ハ京都ニナツタ。鳥潟教授ノ發案通りニ東京ニ日本外科學會館ガ建ツマデハ時々開會地ヲ東京以外ヘ持ツテ行クコトハ致方ガアルマイ。ソレニシテモ遊山氣分デ非常ニ飛ビ放レタ土地ヘ持ツテ行クコトハヨロシクナイ。巨キナ機械屋ヤ藥品屋ガ多少ノ寄附ヲシテ Langenbeckhaus ノ様ナモノヲ東京ニ建テ、外科學ニ關スル一切ノ文献ヲ集メ、平素ハ機械・器具ヲ陳列シ、藥品類ヲ網羅シテ、一般ニ利用ノ出來ル様ニシタラドノ位ヨイカワカラヌ。學士會館ノ様ニ宿屋・煮賣屋・玉突屋・「クラブ」・ナドノ集結シタモノモ入用デハアルガ、外科學會館ノ様ナモノモ出來タラ嚙ヨカロウ。

今度一番議論ノ種ニナツテ、ツマラス時間ヲ空費サセタノハ例ノ三宅獎學金ノ使ヒ方ノ事デアル。昨年キマツタ様ニ『毎年宿題報告者ニ贈呈スル』トイフノデハ、誰カ知ラスガマダ不満足ナ人ガアルラシイ。サリトテハ實ニウルサキ事ノ極ミデアル。コノ様ナウルサイ金ノ寄附ナドヲオイソレト受納シタ常任幹事ハチト失策デアル。

萬一ニモ三宅教授ニ倣ツテ今後 A・B・C・D・E・F……等ノ教授ガ各々金員ヲ寄附シ獎學資

金トシテA・B・C・D・E・F……賞ヲ外科學會毎ニ授與式ヲ行ハネバナラヌトナツタナラバドウ處理スルカ。學會ハソレガ爲ニ無用ノ時間ヲ空費スルデアロウ。三宅教授一人ダケカラ受納シテ其他カラ受納セヌ譯ニハ行クマイ。無論斯様ナ場合ハ實際問題トシテハ頻々アリ得ヌデアロウガ併シ理論上ニハ可能デアル。從テ此ノ種ノ賞金授與ナドハ原則的ニ不可デアル。評議員タル者ノ猛省スベキ點デアロウ。(眞如堂)

2 總會第1日

先ヅ開會ノ時間ノ正確サニ感心シタ、此ノ一事ガ萬事デアル。サテ明年ノ宿題ハ「イレウス」ト決定サレタノデアルガ Histamin 中毒ニハモウ聴キアキタカラ新タニ治療診斷方面即チ臨床實地ニ役ニ立ツ様ナ報告ヲ希望スル。宿題受持チノ小川教授及ビ鹽田教授教室諸彦ノ健在ヲ祈ツテ止マヌ次第デアル。苦シイ思ヒデ食道外科ノ宿題報告ヲ果シタ京大外科ハ宿題報告者ニ向ツテハ痛切ナ同情ヲ寄セル。次回會長ハ後藤七郎教授、開會地ハ京都ニキマツタ。後藤教授ノ健在ヲ祈ル次第デアル。

關口會長ノ會長振リハ期待シテ居ツタ様ニキビキビシテ居ツテ『是アルカナ』ト思ハセタ。

1. アウエルチン麻醉

岡山醫大津田外科 三 木 良 定

自分等ハ局所麻醉ヲ主トシ、ソレニ時々脊髄麻醉、非常ニ稀ニ「エーテル」全身麻醉デー切ノ手術ガ滯リナク出來テ行ツテ居ルカラ、新タニ Avertin 麻醉ナドヲ研究シ様トモ思ハヌガ併シ何シーモ試ミヌヨリハヨイデアロウ。1930年ニ Kirschner ガ Avertin ノ靜脈内注入ヲヤツテ居ルガ、ソレハ日本デハマダヤラヌラシイ。從テ流行ハ獨逸ニ比ベルト二、三年後レルラシイ。當ノ獨逸デハ Avertin 麻醉ハ本年ハ最早ヤ下火ニナツテ居ルラシイ。日本デハ Avertin ノ靜脈内注入ヲ眞似スル時代無シニスグ様下火ニナツテ、アト二、三年シタラバ此ノ麻醉ヲ願ミル者ガ無クナルデアロウト思フ。併シ一應眞似ルノハ悪い事デハ無イ。丁度 Dakin 氏液ノ現レタ時ニ兩三年誰モ彼モ眞似シタ様ニ——。

2. 脊髄麻醉法ニ關スル臨床實驗の研究、竝ニ幼年者ニ於ケル本法ノ適用ニ就テ

東京室田美能理

木村敬義博士ノ腰椎麻醉高處適用ノ觀察追報デアツテ、演者ハ劍狀突起以下ノ手術ニハ本法ヲ原則的ニ使用スベシト主張スル。原則的ニトイフノハ少々過ギテ居ルカモ知ラヌガ Avertin ナドヨリハ確ニ實際的デアル。更ニ演者ハ幼年者ニモ本法ヲ應用スルコトヲ提唱シ Pels Leusden ノ所謂禁忌年齡ガ事實ニ即シテ居ラヌコトヲ述ベタ。此ノ點ハ余輩モ同感デアルガ、演者ノ舉ゲタル如キ極ク幼兒ニ於ケル切開手術ニマデ腰椎麻醉ヲ應用スルコトハ、考ヘモノデハアルマイカ。局所麻醉デ結構ノ様ニ思ハレル。

3. 迷走交感神經麻醉法(石川)ニ關スル基礎的研究

金澤醫大石川外科 窪 田 忍

脊髓神經、交感神經ノ他ニ、迷走神經ヲ切斷スレバ、内臓ノ牽引ヲヤツテモ疼痛ノ表示ガナイカラ、逆ニ迷走神經ニハ痛覺ヲ傳達スル纖維ガアルノデラウトイフ。實驗實物ハ犬デアル。余輩ハ虫様突起炎ノ患者ニハ手術後ニ、盲腸部ヲ牽引サレタ當時ノ感じヲ聽イテ見ルコトーシテキル。痛カツタデスカトキケバ大抵ハ應ト答ヘルガ少シク知識階級ノ人ー詳シク尋ネルト、決シテ本當ニ痛ムノデハナク名狀シ難イ感ガアリ、其時ニハ思ハズ「痛イ！」ト叫ンダト答ヘル。之ハ痛感トハ明瞭ニ分別サレネバナラヌモノデ、吾人ハ侵襲感トシテキル。一種ノ Sensation デアル。

伊藤教授ハ前演者室田氏ノ脊髄麻醉法ニ依ル無痛手術例ヲ引用シテ迷走神經ヲ麻痺セシメズトモ充分無痛デアリウル事カラ迷走神經ニ於ケル痛覺ノ存在ニ Einwand ヲ入レ、知覺反射ト侵襲反射トノ別ヲ明ニスルヨウニ追加サレタ。成ル程此ノ演者ノ言ノ如ク臨床手術上ニ此ノ兩者ヲ區別スルコトハ實際必要デナйкаモシラヌガ、併シ苟シクモ基礎的研究ト銘ヲ打ツテ發言スル段ニナルト此ノ兩者ヲ混淆スルノハ學問的デハナイ。

4. 腹腔及胸腔内病變 X線診斷法ノ一考案 京都帝大外科 藤 浪 修 一

胸腹腔即チ廣大ナル淋巴腔中ヘ造影劑ヲ入レ胸腹腔疾患ノ臨床診斷ノ一手段トスルコトハ、今迄何故カラナカツタカト思ハレル位理論的ニ當然ナコトデ、演者ハ實驗的臨床的ニ追及スルツモリデアル。今回ノ發表ハ基礎検査ノ成績デアル。今後ノ發表コソ見モノデアラウ。コレハ併シ齋藤外科デモヤツテ居ル様デアルカラシツカリヤラズバナルマイ。

7. 四肢脱臼及ヒ四肢血行障礙ノ X線診斷法ニ就テ

名古屋醫大齋藤外科 齋 藤 眞 格
神 川 一

齋藤外科ノ血管造影劑ハ今回「ロンブル」カラ Thorotrast へノ轉換ヲ始メタガ、佳良ト知レバ己ノ「ロンブル」(併シ物質ハ佛ノ Lipiodol)ヲ固執セザル點ハ誠ニ明朗デアル。學問ノ研究ハスベテスクアルベキデ、見倣ツテ欲シイモノダ。此ノ様ナ學者ハ平壓開胸術ヲモ素直ニ認メルデアロウ。

本年ハ症例ノ追加デ、副行枝血流歸還道形成ノ證明ハ毎年午ラ面白ク、又美事デアル。唯、新潟ノ唐津君カラ、造影劑デ副血行ノ證明サレタ時ハイイガ、逆ニ證明サレヌ場合、必ズシモ切斷ノ適應症デアルトモ云ヘナイ、換言スルト血管撮影ナルモノハ診斷治療上絶對必要缺クカラザルモノデハ無イトイフ討論ガアツタノニ對シ、齋藤教授ガ出馬シテ『自分等ハ毛細管マデ撮影スルコトガ出來ルノダカラ副血行位ハ必ズ判ル、斯ル討論ハ技術ガ拙イカラ起ルノデ、アナタハ學會ノ歸リニ名古屋ヘ見學ニ來ナサイ』ト答辯サレタガ、コンナ事ハ學術的デモナイシ禮儀的デモナイカラ發言シナカツタ方ガヨロシイ。實際ヲ見モセズニ技術ノ上手下手ノ如キタイフカラ、忽チ後デ中田教授ニ輕クトツチメラレタノデアル。

自分等ハ齋藤教授教室ノ血管撮影ノ技術ノ優秀ナルモノニ十分敬意ヲ表シテハ居ルガ併

シ實ヲ言フト毛細管撮影ハ外科學上ノ餘技ニ過ギヌモノデアツテ、毛細管ヲ撮影シナケレバ診斷治療ガ出來ナイ程ノモノデハナイ。マタ元來變化シテキル動脈管ニ向ツテ一々造影劑ヲ注入シテ検査スルコトガソレ自身却テ有害ニ作用スルモノダト考ヘテ居ル。齋藤外科デ隨分澤山ト血管撮影ヲ行ツテ居ルニモ拘ラズマダ一度モ動脈管ノ血栓ト炎症性閉塞トヲ區別スルコトガ出來テソレデ治療上ノ重要ナ參考トナツタトイフ報告ヲ耳ニセヌノハ、不思議ニ考ヘラレル點デアル。1 回位此ノ様ナ例ガアツテモヨカロウト思フ。

9. 短波長並ニ超短波長電波ノ外科的應用(第1回報告)

東北帝大 桂 重 次

東北帝大工學部ノ宇田助教授ノ短波長電波ノ研究ニ、關口外科教室員數名ガ參加シテ、外科的方面ノ仕事ヲ擔當シタモノダサウデアルガ、之ニ就テ思フノハ、最初カラ、ソシテ多年綜合大學デアル所ノ各帝大カラ、イカニモ綜合大學ノ外科教室ノ Arbeit ラシイモノガ一向現レナカツタコトデアル。要スルニ主宰者ノ心懸ケ次第頭腦次第デアル。關口教授ト宇田助教授トヨク聯合シテ何か目ザマシイモノヲ完成スル様ニ切望スル次第デアル。

10. 火傷患者52例ニ於ケル臨床的觀察

東京帝大鹽田外科 松 田 一 男

火傷患者52例ガ同時ニ同一原因デ出來タノデコノ機會ヲ逃サズ眞面目ニ觀察サレタ事ニ敬意ヲ表スル。ガ併シ『雨ノ降ル日ハ天氣ガ惡イ』トイフ風ナ報告デアツタノハ此種ノ觀察トシテハ致シ方ガ無イガ、治療上ニ關係シタ比較研究ヲシテホシカツタ。例ヘバ或ハ Histamin 中毒ノ立場カラ、或ハ表皮新陳代謝障礙ノ立場カラ、治療法ヲ少クトモ2 様ニワケ患者ヲ2 班ニシテ經過ヲ比較シテホシカツタ。アタリ前ナコトラアタリ前ニ認識シタダケデハ實ノ持チ甲斐ノ無イ様ナ感無キニシモアラズ。

14. 連荷混合「コクチゲン」軟膏塗擦ニヨル局所性自働免疫

熊本醫大萩原外科 盛 彌 壽 男

「コクチゲン」ヲ塗擦スルト既ニ24時間デソノ部ノ皮下組織ガ菌特異性テ有スル局所性自働免疫ヲ獲得スルトイフノデアツテ、從來丹毒癰疽ソノ他ノ皮膚表在性炎症ヲ「コクチゲン」軟膏ヲ以テ治療シタコトガ正ニ妥當デアルコトラ立證シタ研究デアル。之ニ對シ佐藤某氏ハ、演者ノ使用シタ免疫元「コクチゲン」ガ液性抗原デアルカ否カラ尋ネ、免疫作用ハ「アンチウキルス」ニ依ルモノデハナイカト生硬眞ニ齒ノ浮ク様ナ反問ヲ得意ゲニシタガ、今日尙「コクチゲン」ノ何物デアルカラ辨ヘズ、液性抗原デアルカナイカラキクガ如キ人ノ存在スルヲ知ツテ甚ダ情ケナク思ツタ。コンナ模様デアルカラ勿論所謂「アンチウキルス」ナルモノガ果シテ何物デアルカトイフヤウナ事ハ決シテ判ツテ居様モナイ。其實ヲ知ラズニ其名ヲ言フダケデアル。之ニ對スル盛氏ノ答辯ハコノ相手ヲ馬鹿ニセズ誠ニ

眞面目ナモノデアツタ。併シ會衆ノ中ニハ佐藤某ノ言デ抱腹絶倒ヲ禁ジ得ナカツタ者モ見受ケラレタ。

16. 野兎病ノ外科的觀察(第3回報告)

福 島 大 原 八 郎

開業醫ヲシナガラ間斷無クスル地味ナ研究ヲ續ケテキル態度ヲ心カラ喜ビ、今年ノ病原球菌ノ決定ニ就テノ發表ヲ謹聽シタモノデアルガ、蜀ヲ望ムナラバ、來年カラハ螺ノ命名者ガ外科醫者デアルカラドウノト、横道ヘソレテ一堂ノ緊張ヲ破リ外科學會ノ聽衆ノ氣分ヲツブシタリセヌヤウニ願ヒタイ。演說ノ内容ガ學術的ニ充實シテ居ルカ或ハマタ學術的ナコトヨリモ多分ニ世俗的廣告的デアルカトイフ様ナ事ハ敏感ナ一般聽衆ニハ最モヨク判斷出來ルモノデアル。

21. 氣管枝性喘息症ニ對スル植物性神經手術ノ適應症決定

名古屋醫大齋藤外科 橋 本 義 雄

此ノ報告ハ内容ニ於テモ、演說ノ仕方ニ於テモ、兎ニ角ニ謹聽サセタ立派ナモノデアル。齋藤外科ニ此人アルカト嘆賞サセタ。即チ植物性神經機能ノ藥効的検査ニヨリ表題ノ事が甚ダ明瞭ニ決定出來ル、氣管支性喘息ニ於ケル頭部交感神經切除術ハ迷走神經緊張狀態ニアルモノガ適應症デ、コノ適應ナキモノハ右側迷走神經切除術ノ適應ガアルトイフノデアアル。甲狀腺外科ノ場合ト相似テ、適應症決定ハ臨床的ニ特ニ重要ナ問題デアルカラ、各地ノKlinik デ多數例ニ基イテ之ノ正否ヲ早く確立セシメル要ガアル。綜合大學ガ學術的ニ聯合スルコトモ必要デハアルガ、ソレニモ増シテ本邦ノ外科臨床ガ學術的ニ聯合スルコトガ更ニ非常ニ必要デアル。コレガ出來タナラバ此ノ様ナ問題ノ解決ニハ何程有用デアルカ測リ知レヌ位デアル。蝸牛角上ノ爭ヒヲ止メテ大同ヲ策スル偉人ハ現レヌカ。併シ醫者仲間デハソレハ到底實現出來サウニモナイ。御殿醫、町醫ノ時代ヲ經來ツテ今日マデ醫者仲間ニドノ様ナ人間ガ出現シタカ。口惜シイ事デハアル。

宿題報告 氣管支喘息ノ外科(特ニ Kümmel 氏頸部交感神經切除術ニ就テ)

北海道帝大 柳 壯 一 教授

數年間ノ業績ヲ系統附ケテ、早瀬ノ水ノ流ルルガ如キ快辯デ約3時間ニ涉ツテ述べラレタ。誠ニ謙遜ニシテ誇大ラシキモノ無ク、聽者ニハ大ニ愉快デアツタ。

シカシ此ノ演說デ氣ニナツタノハ、文獻上ノ紹介ガ至ル所デウルサイ程ツキマツタ事デアル。之ハ先進者ノ說デ自己ヲ牽制シテナルベク獨斷ニ陷ラヌヤウニ企テ、又一方今迄ノ歴史ヲ教ヘヨウトサレタノデアラウガ、權威者ノ演說ニハ所謂獨斷ガアル方が却テヨロシイ、ソレデナケレバ印象ガ朦朧トナル。宿題ヲ聽キニ來ル位ノ人ノ大部分ハ手ブラデハ來ナイ。コノ問題ニ關スル大體ノ行歩ハ既ニ知ツテキテ、會場ヘハ宿題報告者ノ獨自ノ見解ヲ識リタイト思ツテ集ツタニ相違ナイ。時間ノ足ラヌノハ最初カラワカリキツテ居ルノ

デアルカラ演壇ニ起ツテ何回モ何回モ『時間が無い』ト言ヒ譯ヲスルノハ何ノ役ニモ立チハセヌ。ソナ言ヒ譯ヲ繰リ返ヘス時間デドント本論ヲ述べ速カニ自説ノ最高潮ニ導クガヨイノデアル。ソシテ何カモツト獨特ノ治療法ヲ聽カセテ貰ヒタカツタ。妄言多罪。

(金棒子)

3. 總會第2日

23. 熱性及寒性膿瘍中ノ「トリブシン」及其ノ診斷の治療の價值

大阪帝大岩永外科 高田貫太郎

演者等ハ熱性並ビニ寒性膿瘍中ニ含有サレテ居ル蛋白消化酵素ガ先ヅ「トリブシン」デアル事ヲ知り而シテソノ含有量ヲ數量的ニ表シ得タ。コレハツツノ進歩デアル。然シコノ際京大ノ裕君ガ追加シタ如ク「ゲラチン」平坂ノ上ニ膿ヲタラシテ、ソノ「ゲラチン」消化ノ有無ヲ検査シ、膿瘍ノ種類ヲ決定スルノ法ハ頗ル簡便デ臨床的ニ普ク利用ス可キノ法デアル。コレニ對シテ竹林氏ハ更ニ發言サレタガ、昨年6月ノ近畿外科集談會デ青柳氏ガ「流注性膿瘍ノ治療方針」ナル題下デ該膿瘍ハ切開ノ上膿膜内面ヲ搔破シテ第一期癒合ヲ企ツル様ニ閉鎖スレバ、集ツテ來タ白血球モ崩潰シテ蛋白消化酵素ヲ出シ、タメニ寒性膿瘍モ吸收サレ易クナルノデアラウ、ト説イテソノ治驗例ヲ示シテ居ラレタ。併シ此ノ様ナ治療ノ方針ヲ定メル定メル爲ニ竹林氏ノ言ノ如ク々々膿中ノ「トリブシン」ヲ定量セネバナラヌトイフノハ迂遠ノ極デアツテ臨床實地ニ適セヌモノデアル。鶏ヲ割クニ尖刃刀ヲ用フルノ類デアル。

26. 人ノ惡性腫瘍ト「イムペヂン」現象

京大外科 平尾猛

先年青柳氏ハ人間紡錘形細胞肉腫ニ於テ「イムペヂン」現象ヲ證明シ、肉腫ノ發生原因ハ凡テ微生物デアルト説イタ。今、又演者ニ依ツテ人間圓形細胞肉腫ニ於テモ同様ニ「イムペヂン」現象ガ證明サレテ居ル。全ク新シイ生物學的ノ所見デアツテ、吾人ノ傾聽シナケレバナラナイ事實デアル。『刺戟』ナル形而上ノ一般の原因デ炎衝モ出來ルシ、癌モ出來ルシ、肉腫モ發生スルト説ク様ナ刺戟説ハ一顧ノ價值モナイ事ガ明ニ裏書サレタト云フモノダ。日本ノ病理學教室デモツト手廣ク肉腫ノ「イムペヂン」現象ヲ研究シテホシイモノデアル。法律上義務ヅケラレテ居ラヌカラトテ此ノ様ナ事實ヲ顧ミナイノハ學術上變ナモノデアル。

34. 輸血用血液ノ機能衰退現象ニ對スル時間的考察(第1回報告)

京府大望月外科 木口直二

コノ問題ハ血液貯藏ニ關シテ我々ノ考ヘテ居タ事ヲ學問的ニ明ニシテ吳レタモノデアル此ノ際奥ノ席カラ聲ガアツテ質問追加ガ出タ。曰ク「輸血ノ効力ハ何ニ依ルカ」ト。演者

答ヘテ「ソノ點ニ關スル詳シイ事ハ今研究中」ト。此處ニ於テ追加氏更ニ曰ク「輸血ノ効クノハ輸入サレタ血液ガ造血器ヲ刺戟シテ血球ノ新生ヲ促スカラゲト思フ。自分モコレカラコノ點ヲ實驗研究シテミ様ト思フテ居ル」ト。全くベラ棒ナ追加デアル。路上ノ何レノ教科書ニモ書イテアル様ナ事ヲ自分ノ考ノ如クニ述ベテ而モ「コレカラ研究スル云々」ニ至ツテハ誠ニ恕シ難イ。自分ノ得タ事實ニ立脚シナイデ物ヲ云フ如キ代物ハ今後ハドシドシ學會カラツマミ出スガ宜シイト思フ。

35. 加尙糖酸普達血液間接輸血ト直接輸血ノ臨床的比較成績

松本病院 川 瀬 潔
原 三 郎

直接輸血ノ方ガ間接輸血ニ比シテ副作用ガ無ク遙ニ利用ニ値スルトイフノデアル。追加者ガ多く賛成者モ多クツタ。然シ桐原教授モ云ハレル如ク、直接法ヲ行ヒ得ナイ場合ガ時ニ起リ得ルノデアル。デアルカラコノ際ハ勿論間接法ニ依ル可キデアル、トノ同教授ノ説ハ妥當デアツテ、全然間接法ヲ拒ケテ了フ譯ニハ行クマイト思フ。但シ吾人ハ間接法ニ依ツテ副作用ヲ惹起シ困却シタトイフ例ハ1例モ遭遇シナカツタ。

36. 病的腎ニ於ケル輸尿管結紮ノ影響ニ就テ 九大赤岩外科 鳥 居 三 郎

家兎ノ一側腎ニ大腸菌ヲ注射シテ一定時日ヲ經テ顯著ナル病變ヲ起シタモノニ輸尿管結紮ヲヤルト約3週ノ後ニハ膿腎モ結締組織化スルノデ、人間ニ於テモ摘出不能ノ如キ癒着ノ強イ大腸菌膿腎ハ輸尿管ヲ結紮スレバヨイト云フノデアル。「イデー」ハ面白イ。然シ、膿腎ノ膿ノ排出ヲトメタ際果シテ何等ノ影響ヲ3週間モ受ケズニ濟ムデアラウカ。マタ他側腎ヘノ轉移等ヲ考ヘズニ良イデアラウカ。此ノ點ノ今後ノ研究ヲ俟ツモノデアル。

46. 追加 肺臓ノ神經支配ニ就テ

高 知 濱 田 稻 積
辻 用 廣 雄

山崎氏トノ間ニ討論ガアツテ少シク賑フタ。濱田氏ハ Stöhr ノ説ヲ勇敢ニアツサリト否認シテ居タガ、一體コノ人ハ、熱心ナ様デハアルガ無駄口ガ多過ギル。コノ人ガ何カニツケテ追加スル文句ハ毎年全ク同一ナノデアル。曰ク「神經ノ染色ハ何氏法ニ依ラレシヤ?」「ソノ他ニハ?」「ソレハ結構デアル。然シ神經ノ染色ハ非常ニ難シイモノデアツテ……」次イデ俺ヨリ他ニハ神經ノ病理解剖ノ解ル者ハ無イトイフ調子デ話シ出スノデアル。既成ノ學說ヲ打破スルノハ大イニ宜シイ。然シコレハ確固タル事實ニ立脚シテ行ハナケレバナラナイ。況ヤソノ場ノ言葉ノ行キガカリ上、平氣デ輕々シク此シナ説ヲ吐クトスレバソレハ許サル可キデナイ。34、木口君ヘノ追加ト云ヒ、コノ人ハ會場ノ沈黙ヲ破ルニハヨイカモシレヌガ反省ヲ要ス可キ點ガ多々アル。問題ニ直接必要ノ無イ事項ヲ長々ト辯ジ立テルノガ何ヨリヨロシクナイ。會長ノ制止ニ反抗シテ更ニ駄々ヲコネルナドハ最モヨロシクナイ。

47. 腹壁ニ用ヒタル寒冷竝ニ溫熱ノ腸管運動ニ及ボス影響ニ就テノ臨床的並ニ實驗的研究 京府大横田外科 矢 田 貝 薫

横田教授教室が長ラク研究ヲツヅケテ來タ腸管運動ニ關スルモノノ一部ヲナシテ居ル様デアルガ、追加シタ中田教授ノ腹窓法ニ依ツテ直視シタ結果モコレニ一致シテ居タ。

本年ノ矢田貝氏ノ演說振りニハ進歩ノ跡大ニ見ル可キモノガアル至囑。

48. 急性腹膜炎診斷上ノ1補助法ニ就テ 京大外科 長 岡 浩

コレモ亦新シイ診斷法デアル。尿ニ排泄セラレル大腸菌ニ注意ヲ向ケタ事ハ面白イト思フ。一ツノモノヲアラユル方面カラ見ルトイフ事ハ誠ニ大切ナ事デアル。コレニ追加演說ヲシタ立林氏ハ、演說ニ當ツテ、外套片手デアツタガ、餘リナ不眞面目ト云ハナケレバナラナイ。

特別講演 廣汎性肺虛脱ニ關スル研究 九大助授教 石 山 福 二 郎

肺虛脱トイフ事が日本デハマダ十分ニ知ラレテ居ラス際ニ此ノ講演ノアツタノハ機宜ニ適シタモノデアル。「エビデアスコープ」ヲ使用シテ宛然歐米デノ仕方ヲ彷彿サセタノハヨカッタ。今後ノ學會ニハザワザワスル紙ノ表ナドハ持ち出サズニ此ノ様ナ風ニスルガヨロシイ。

石山氏ガ肺虛脱ノアル側ニ陰壓ガ非常ニ高マリ、頸靜脈カラ挿入シタ異物が十ノ八・九ハ虛脱肺ノ方ヘ進入スルトイフ實驗結果ヲ示シタノハ興味多キモノデアツタ。Sauerbruchノ教室デ相當ニ勉強シテ日本ノ學者ノ力量ヲ示シテ歸ツテ來タ事ニ對シテハ十分敬意ヲ拂ハルベキデアル。

× × × × ×
× × × × ×

△學會2日目モ追加討論ガアツテ活氣ニ満チテキタ。タダ追加者が聴衆ニ面ヲ背ケテ演壇ノ方ヘ向イテ發言スルノデ聴衆ニハソノ趣旨ガ徹底シナイ憾ガアツタ。今後ハ總テ演壇ニ起チ會衆ノ方ニ向ツテ發言スル様ニシ度イモノデアル。ソレカラ、追加ハ凡テ自己ノ實驗或ハ臨床例ニ立脚シテ物ヲ云フ可キデ、然ラザルモノハ會長ガ宜シク中止ヲ命ジタ方がヨイ。

△學會ヲ何カニ利用セントノ態度。自己ヲ賣ランガ爲ニ或ハ自分ノ學徒ヲ賣ランガ爲ニソレヲ利用スル事がアツタトスレバ、之等學會冒瀆者ハ當然石ヲモテ打タレナケレバナラナイ。2日目ノ演題ヲミテ、ソノ謗無シト何人が斷言シ得タデアラウカ。此ノ様ナ者共ハ學會カラ追放サル可キデアル。

△ソノ實驗ガ何ノ目的デ行ハレタノカ、之レヲ明ニシナイ、マタ、シ得ナイ様ナ報告ガ

アツタ。實驗ノ爲ノ實驗ハ先ヅソノ意義ハ無イト云ツテヨイ。特ニ吾々臨床家ニアツテハソノ實驗ガ臨床方面ニ關係アル事ニ依ツテ意義ヲ生ジテ來ル譯デアル。實驗ダケナラバ、山深イ中學校ノ博物教室デモ立派ニ出來ルノデアル。

△外國文献ヲゴタゴタ述ベテ最後ニチョツビリ而モ充分ニ自分ノ物ヲ云ヒ切レナイデ引キ下ツタ人ガアツタ。毎年ノ事ナガラ異人崇拜ノ惡イ風潮デアル。昭和2年ノ當學會デ、時ノ會長鳥瀉教授ハ閉會ノ辭ニコノ點ヲ指摘シテ、會衆ノ注意ヲ促シテ居ラレタ筈ダ。外國人ダケガ豪ク見エタリ、洋行歸リノ先生ガ騒ガレタリスル時代ハモウ過去デナケレバナラヌガ、併シ『3000年來ノ物眞似ノ國』デハ容易ニ更マラスト見エル。

△鐵兜子ノ領分デハ無イガ、3日目ノ、宿題擔當者ニ對スル獎學資金授與式ナルモノ程滑稽ナ存在ハ無イ。授ケル會長モ「Programmニ載ツテ居ルカラ、コレカラ舉行シマス」ト申シ述ベタシ、3人ノ擔當者連モ「ドウモ??!!」ト申ス様ナ様子デ受ケタ様デアル。熱モナケレバ威嚴モ無イ。氣ノ抜ケタ腐ツタ「サイダー」同然デアル。アノ金ハ何モアンナ儀式的ナ事ヲシナクテモ良イモノダト思フ。宿題擔當教室乃至ハ當人ニ豫メ贈呈シテ置イタ方が合理的デアル。ソレトモ、アノ金ヲ寄附シタ人ガ、アノ變體の儀式ヲ眺メナガラ、獨リ悦ニ入ツテ居様トイフノデアレバ、マタ何ヲカ言ハンヤデアル。學會ノ名ノ下デ無理ヤリニ五合米ノ前ニ膝ヲ屈セサセラルル宿題擔任者連コソ誠ニオ氣ノ毒ノ極ミデアル。今度限りデモウ澤山デハアルマイカ。『通貨』ヲ至高ノ贈物ト考ヘルノハ一體ドウイフツモリデアルカ。羅馬ノ古ヘガ俣バレル。

△妄言甚ダ申シ譯無イガ、蛇口佛心ノ鐵兜子ノ言ダ。學會進歩ト淨化トヘノ何等カ刺戟ニナラン事ヲ祈ツテノ言ダ。御容赦アツテ然ル可シ。而モ尙ホ、各教室ガ今後ドシドシ中正ノ立場カラ、學會演說ヲ批判アル様乞ヒ願ウテ暫ラク兜ノ紐ヲハヅシテ涼風ヲ納レル次第デアル。(鐵兜子)

4. 總會第3日

第3日午前ハ先ヅ『急性虫様突起炎ノ成因ニ關スル研究』ニ始マリ續イテ之ニ對スル追加ガ3題アリ、河村、濱田兩君ノ討論ガアツタ。アノ席ニ居合セタモノトシテ誰シモ最モ遺憾ニ感じタノハ濱田君ノ討論デアツタデアラウ。同君ハ先ヅ例ニヨツテ何カ要點ノハツキリシナイ事ヲ色々述ベテキタガ遂ニ『河村君ノ研究ノ如キ面白キ業績ニハ會長ニ於テモツト多クノ時間ヲ與ヘテ欲シカツタ』トイフ所迄脱線シタ。之ニ對シテ會長ノ婉曲ナル注意ヲ受クルヤ、理不盡ニモ今度ハ會長ニ向ツテ喰ツテ掛リ、遂ニ會長ガ聲ヲ勵シテ再三中止ヲ命ジタモ拘ラズ、尙執拗ニ會長ニ向ツテ反抗ヲ止メナカツタ。諸所ニ『シーツ』ト制止ノ聲ノ起ツタノハ眞ニ當然デアル。恐ラク何人モ『濱田君狂エル乎』ト疑ツタデアラウ。

更ニアノ場ノ不快ナル空氣ヨリスレバ假令會長ガ濱田君ニ退場ヲ命ジタトシテモ何人モ異議ヲ唱ヘナカツタデアラウト思フ。

嘗ツテ鳥瀉教授ハ歐洲歸朝談ノ中ニ次ノ如キ事實ヲ語ラレタ。獨逸外科學會ニ於テ、會長 Auschutz ガ或演者ニ向ツテ『君ノ演説ハ1分間デ述ベヨ』ト命ジタトコロ、演者ハ唯々トシテ命ゼラレタ通り1分間デ演説ヲナシタ。又或ル甲乙兩者ノ討論ニ際シテ Auschutz ハ甲ノ所説ガ正シイ (A hat Recht!) ト斷ジタ。此ニ對シテ乙ハ何等不服ヲ述ベズ甲モ得意ラシキ顔ヲ見セナカツタトイフ。

獨逸ト我國トデハ人間モ事情モ訓練モ異ルデアラウガ、ソレニシテモ外科學會員ノ會長ニ對スル態度ニ何ント大ナル差ノアル事ヨデアル。學術ヲ重ンズル者ハ學者ヲモ重ンジ從テ會長ヲモ畏敬スベキデアル。彼ノ有様ハドウダ。轉々慨嘆ニ堪ヘナイ事デアル。

從來濱田君ノ討論ニハ常軌ヲ逸スルモノガ多カツタ。唯失禮ナラ『濱田君如キヲ相手ニシテ彼此議論シタトコロデ大人氣ナイ』トノ氣持カラ、苦々シクハ思ヒ乍ラモ何人モ問題ニシナカツタ丈ケデアル。今回ノ學會ニ於テモ、神經染色ヲナシ得ルモノハ自分以外ニハナキカノ如キ口吻ヲ弄シタリ、實驗又ハ自己ノ臨床經驗ニ基カズシテ勝手ナル自己ノ憶測ヲ述ベタリ、何レモ正氣ノ沙汰トハ解サレヌ事ガ多カツタ。忌憚ナク云ヘバ濱田君ノ如キ人ハ、寧ロ學會ニ出席シテ貰ハヌ方ガ學會ノ爲デアルト思フ。

次ニ其他ノ演題ニ就イテ云ヘバ、第3日ノ普通演題ハ午前中ダケデアツテ從ツテソノ數モ少カツタガ、ソノ中ニアツテ「イレウス」死因ニ關スル研究ノ多イコトガ特ニ目ニツイタ。即チ

51. 腸管捻轉症ニ於ケル血壓及ビ呼吸機能ノ態度ニ關スル實驗的研究

古 森 善 五 郎(九 大)

52. 實驗的小腸閉鎖症ニ於ケル胃運動ノ觀察並ニ其ノ組織學的研究ニ就テ

蟻 田 重 雄(熊 大)

54. 高位腸閉塞時ニ於ケル胃液分泌狀態ニ關スル研究

小 川 蕃(京城大)

同追加。腸閉塞時ノ自家融解並ニ其發生機轉ニ關スル實驗的研究

調 來 助(京城大)

55. 「イレウス」毒素ニ關スル化學的研究

竹 林 弘(阪 大)

59. 胃並ニ十二指腸臟置ニ關スル實驗的研究

勝 屋 弘 辰(熊 大)

ノ6題デアル。小川、竹林兩氏等ハ「イレウス」毒素トシテ「ヒスタミン」ヲアゲ、血壓降下其他ノ症狀ヲ「ヒスタミン」ノ末梢作用トサル、ニ對シ、古森氏ハ毒素ノ中樞性作用

トシテ説カレタ。

何レニシテモ之等ノ實驗成績ニヨツテ「イレウス」ノ臨床ガ直接如何イフ影響ヲウケル
トイフワケデハナク、唯 pathologische Physiologie ノ立場ヨリ興味アルー過ギナイ。固
ヨリ斯ル研究モ必要ナコトハ勿論デアルガ、我國外科學會ニ於テハ過大ノ興味ヲ惹イテキ
ルノデハナイカト思フ。來年ノ宿題報告モモシ此ノ如キ臨床ヲ遠ク離レタ點ニ研究ノ重心
點ガ置カレルトスレバ甚ダ物足りナイモノニナリハスマイカ。死因ガ「ヒスタミン」中毒
ト決定シタコロデ、「イレウス」ハ早期ノ手術ニヨラズシテハ救ヒ得ル筈ハアルマイ。高
々何等カノ補助治療法ガ講ゼラレル位デアラウ。「イレウス」ガ宿題トシテ課セラレル以上
ハ、ソノ診斷法或ハ治療法ニ於テ進歩ヲ期待シタイモノデアル。コノ點ニ關シテ今回ノ學
會ニ限ラズ、從來ニ於テモ殆ンド發表サレタモノアルヲ聞カナイノハ淋シイコトデアル。
然シ宿題モ一寸種切レノ形デアル。宿題ノミナラズ、今回ノ外科學會ニ現レタ一般ノ演題
ニ於テモ漸ク行詰ツタトノ感ヲ抱カセラレル。

宿題報告 食 道 外 科

京都帝大 大澤 達 助教授
千葉醫大 瀬尾 貞 信 教 授

午後ハ食道外科ノ宿題報告デ立錫ノ餘地ナク聽衆堂ニアフレタ。

大澤助教授ノ報告演説ハ非常ニヨカッタ。近年ノ宿題報告中ノ白眉デアラウ。第33回日
本外科學會ハマルデ此ノ宿題報告ノ爲ニノミ開催サレタカノ感ガアツタ。從來ノ宿題報告
ハ既ニ外國デ主張シ、或ハヤツテキル事ノ追試ノ域ヲ殆ンド一步モ出ナイモノガ多カッタ。
ソノ然ラザルヲ得ナカッタ所以ハ、宿題報告者ニ何等新シキ自己ノ「イデー」(指針着想)
ナク、報告ノ中心點ガ鮮明デナカッタ爲デアラウト思フ。

然ルニ今回ノ大澤助教授ノ報告ニ於テハ全體ガ始終異例的ニ確乎タル一定ノ主張ニヨツ
テ一貫サレテキタ。即チ年來京大外科ノ主張タル平壓開胸術ニヨツテ新シキ食道外科ヲ建
設シャウトイフノデアル。異壓裝置ニヨツテ既ニ邪道ニ踏ミ込ンデ仕舞ツタ從來ノ食道外
科ニ向ツテソノ正道ヲ示サウトイフノデアル。

從ツテソノ報告ハ到ル所建設者トシテノ潑刺タル新鮮味ト熱意ト霸氣トニ満チテ意氣正
ニ天ヲ衝クノ慨ガアツタ。他人ノヤツタ事ニ全然執ハレズ、殆ンドスベテ京大外科ノ臨床
例ト實驗トニ基イテ敘述サレタ。廣汎ニ亘ル實驗ニヨツテ平壓開胸術ガ單ニ無害ナルノミ
ナラズ過壓開胸術ニ優ルコトガ明確ニ立證サレテ平壓開胸術ニ確乎タル基礎ガ据エラレ、
食道切除ニ關スル諸實驗ニヨツテ最も確實ナル縫合方法ガ決定サレタ。

食道外科ノ臨床ニ於テハソノ殆ンド總テノ方面ニ亘ツテ、正確ナル「プロトコル」ニ基
イテ輝シキ成功が見ラレタ。殊ニ胸部食道癌(瀬尾教授ノソレトハ少シク異ル、後述)切
除ニ於テ4例、噴門癌切除ニ於テ8例、特發性食道擴張症ニ於テ6例ノ全治ヲ得、平壓開

胸開腹術ニヨル雙手の異物摘出ノ1例ニ成功ヲ收メタ事ハ、關口會長モ述ベラレタ如ク我國外科學會ノ爲ニ世界ニ向ツテ萬丈ノ氣ヲ吐クモノデアル。ソノ他食道外科ノ進歩トシテ目サルベキ事實ハ殆ンド到ル處ニ認メラレタ。

食道外科ノ前途ハ尙遠イ。然シ新シキ食道外科ノ基礎ヲ建設セント努力シタ大澤助教授ノ企圖ハ完全トハ云ハザル迄モ尙以ツテ先ヅハ満足スベキ程度ニ成功シタトイツテヨイデアラウ。

トニカク從來ノ宿題報告ニ於テ吾々ハ『外國並ミーヤレルゾ』トイフ感ジヲ受ケタニ對シテ、今回大澤助教授ノ報告ニ於テ『世界ヲ「リード」シテ行クゾ』トイフ感ジヲ得タコトヲ時節柄コノ上モナク痛快ニ思フ。其ノ終結ノ辭ノ如キハ眞ニ骨鳴リ肉躍ルノ概アリ、關口會長盡ク共鳴シテ嘆賞ヲ禁ジ得ザリシ有様ハ決シテ不自然デハナカッタ。

瀨尾教授ノ宿題報告ガ前演者ノ彪大ナ創意的ナ業績ニ比シテ著シイ見劣リヲ免レナカッタノハ止ムヲ得ヌコトデアラウ。然シ瀨尾教授ノ努力ハ充分認メラレタ。ヨクアレ程迄ヤラレタト、何人モ敬意ヲ表シタデアラウト思フ。然シソノ努力ハ充分認メルトシテモ、大澤助教授ノ眞摯謹嚴ナ報告ト併セ聽イタ人一シテ、多少トモ心アル人デアレバ何人モ或ハ遺憾ニ感じ或ハ奇異ニ感じタ點ガ多クアツタデアラウト思フ。ソレヲ點ニ關シテ二三評者ノ感想ヲ記スコトヲ許シテ貰ヒタイ。

先ヅ瀨尾教授ノアノ演說態度ハイカバナモノデアラウ。モット眞摯ナ態度デアツテ欲シカツタト思フノハ評者ダケデアラウカ。例ヘバ『痛ガクサル』トカ『感染ガオツカナイ』トカ其他コレニ類スル非學術的ナ卑俗ナ言葉、或ハ『會長ノ命令デスカラ已ムヲ得マセン』等嫌味ニ聞コル言葉等ハトニカクトシテモ、『穴ノゾキハ不得手デシテ』トニヤニヤシナガラ言ハレタノ一ハ何人モ面ヲ背ケタデアラウ。斯ルコトハ從來ノ宿題報告ニハ嘗ツテナカッタコトデアツテ、單ニ瀨尾教授自ラヲ傷クルノミナラズ學會ヲ侮辱スルモノトシテ遺憾ニ堪ヘナイ所デアル。吾々ハ神聖ナル學會ノ爲一コレヲ聞カナカッタコトニシタイト思フ。

次ギニ演說ノ内容デアルガ、昨年ノ學會ニ於テハ瀨尾教授ハ平壓開胸術ノ危險ト過壓裝置ノ必要トヲ力説サレタノニ、今回ノ報告ニ於テハ七十數例ノ開胸例ニ於テ、極メテ僅少ノ例外ヲ除キ平壓開胸術ノ無害デアツタ事ヲ述ベラレタ。1年間ニ於ケル學術ノ進歩ニ伴フ心境ノ變化ト思ハレル。然シ斯クノ如ク明白ニ無害ナル平壓開胸術デアル以上、若シ同教授ガコノ七十數例ノ中ノ幾例カヲ昨年ノ學會以前ニ行ツテ居ラレタトスレバ、恐ラク昨年ノ學會ニ於テ前述ノ言ヲ爲サル、コトハナカッタデアラウ。此點ヨリスレバ昨年4月以前ニハ殆ンド開胸術ノ經驗ヲモツテ居ラレナカツタトモ考ヘラレ、昨年ノ言ハ全然教科書カラ抜け出シテ來タ意見ニ過ギナカツタトモ考ヘラレル。

兎ニ角同教授經驗ノ七十數例ノ開胸術ハ昨年學會以後本年2月迄即チ最近10ヶ月間ノ經

驗ト推察サル、ガ、大學教授トシテノ繁劇ナル職ニアリツ、且ツ頸部食道癌、瀨尾式(?) 肋骨弓轉術ニヨツテナサレタデアラウ噴門癌(?)等々ノ開胸以外ノ食道手術ヲ行ヒツ、而モ千葉ヨリハ患者ノ多カルベキヲ豫想サレタ京大外科ニ於テサヘ同期間ニナシ得ナカツタ七十數例トイフ多數ノ開胸術ヲ行ハレタ努力ハ、重ネテ吾々ノ驚異的ニ敬意ヲ表スルコロデアルガ、此努力ニヨツテ1年前ノ頑強ナル反對者デアツタ瀨尾教授自ラ京大外科年來ノ主張デアリ幾多論難ノ的デアツタ平壓開胸術ヲ裏書サレタ事ハ、京大外科ニトツテハ眞ニ快心ノ事デアツタ。

コレハ元ヨリ當然ノコトデアツテ、京大ノ主張ガ實際ノ臨床の經驗ニ發シ、瀨尾教授ノ反對ガ獨逸教科書ノ受賣リニ過ギナカツタ以上當然カクアルベキコトハ最初ヨリ明デアツタノデアル。外國カラ來タモノハ無條件ニスグ賛成デ、爭フテソレヲ眞似ビ後レザランコトヲコレ恐レ、國內カラ起ツタモノハ無條件ニ頭カラ反對、是ガ即チ『3000年來ノ物眞似ノ國』ノ有様デアル。今後モ是レガ續クデアロウ。從テ餘程意志ノ強烈ナ人デ無イ限りハ日本人ニシテ獨創ノ人ハ此ノ國土ニハ生キテ居レヌデアロウ。本邦學術ノ爲ニ果シテ是カ非カ。自分ハ此時渾然トシテ天ノ一方ヲ凝視スルコト多時デアツタ。

サテ瀨尾教授ノ平壓開胸術デアルガ、4,5 例ニ於テ開胸中突然呼吸ノ停止ヲ來シ過壓呼吸ヲ行フコトニヨツテ恢復シタト述ベラレタガ、之ハ吾々實際開胸術ヲ數多クヤツテ居ル者ニハ一寸肺ニ落チ兼ネル事デアル。京大外科デハ斯ル經驗ハ全然ナイ。過壓呼吸ニヨツテ恢復シタトスレバ、平壓開胸ニ於ケル瓦斯代謝障礙ニヨツテ呼吸ガ停止シ、過壓呼吸ニヨツテ其瓦斯代謝障礙ガ除カレタト云フ意味ニ解釋セネバナルマイガ、京大畚野勝呂兩君ノ動物實驗ニヨレバ瓦斯代謝障礙ハ家兎ニ於テスラ、平壓開胸ノ方ガ過壓開胸ヨリモ少イトイフ事ニナツテキル。

常識的ニ云ツテモ過壓呼吸ハ努力呼吸デアル。平壓ノ空氣サエ呼吸シ得ヌ一般狀態デ過壓空氣ヲ呼吸シ得ルデアラウカ。由茅式ノ人工呼吸裝置ヲ用ヒテ呼吸ヲ恢復シタト云ヘバ理解モ出來ルガ、單ナル過壓裝置デ恢復シタトハ一寸不思議ニ思ハルル。恐ラク瀨尾教授ノ經驗サレタ場合ハ平壓開胸トイフコトデハナク、迷走神經障礙、心臟障礙等ニヨル反射的ノ呼吸停止デアラウ。斯ル事ハアリ得ルコトデアル。然シコレハ全然平壓開胸トハ無關係ノコトデアツテ、恐ラク過壓裝置ヲ用ヒズトモ恢復スルモノナレバ恢復スル筈デアリ、偶々過壓裝置ヲ用ヒタガ故ニ、ソノ爲ニ恢復シタカノ如キ外觀ヲ與ヘタモノデアラウ。從ツテコノ事實ヲ以テ平壓開胸術ヲ貶スノハ當ラナイ。却ツテ、若シ瀨尾教授ノ云ハル、如ク斯ル事實アリトスルモ、コノ事實ニモ拘ラズ瀨尾教授ガ食道手術ニ原則トシテ平壓開胸ヲ行ツテ居ラル、ノハ、要スルニ過壓裝置ガ食道手術ニ如何ニ不便不都合ナルカヲ立證スルモノデアツテ、結局平壓開胸術ヲ讚美スルモノニ外ナラナイノデアル。

次ニ食道外科トイフノデハアツタガ、瀨尾教授ハ食道癌以外ノ胸部食道疾患ニ對シテハ實際手術ヲ行ツテ居ラレナカツタ。京大ニ於テ6例ノ手術治驗例ヲ示シタ特發性食道擴張症ニ對シテモ、數例ノ診斷例ハアツタ様デアルガ、1例ノ手術スラナカツタコトハ一寸異様ナ氣ガシタ。

ソレハトニカク、少數ノ例外ハアルニシテモ開胸サレタノハ殆ンド全部食道癌ニ對シテ行ハレタモノト思ハレル。開胸ニヨツテ癌腫切除ヲ行ハレタノハ表ニヨレバ十數例デアツテ、同教授ノ所謂噴門癌ヲ開胸ニヨツテ行ハレタトシテモ合計15—6例ヲ出デナカツタト思フ。然ルニ同教授ノ全開胸例ハ前述ノ如ク七十數例トイフノデアルカラ癌腫切除率ハ甚ダ少イ。此ハ癌腫ガ既ニ著シク進行シテキタト云ヘバソレ迄デアルガ、一方考ヘ方ニヨツテハ同教授ノ手術方法ノ缺陷ニ基クトモ考ヘラレルデアラウ。何ントナレバ同教授ハ所謂包埋法ヲ推賞サル。此方法ハ直ニ知ラルル如ク Sauerbruchノ胃内套陷法ノ變法デアルガ、腫瘍ヲ其上下端デ結紮スル關係上、Sauerbruch法ヨリモ更ニ多ク殘胃ノ餘猶ヲ必要トスル事ハ明デアツテ、到底大ナル腫瘍殊ニ食道下部ヨリ噴門部ニ亘ツテ擴ツタ大ナル癌腫ニ對シテ行ヒ得ザル事ハ言フ俟タナイ。從ツテ其適應症ハ著シイ制限ヲウケル。即チ斯ル方法ヲ固守サル、以上切除率ノ著シク少イコトハ當然デアル。此點ヨリ云フモ所謂包埋法ナルモノガ癌腫ニ對スル選擇の切除方法 Methode der Wahlト認メ得ザル事ハ明白デアツテ、斯ル方法ニ止マル間ハ瀨尾教授ノ食道外科モ今後ノ發展ハ期待シ得ナイデアラウト思フ。

更ニ癌腫切除ニ就テ瀨尾教授ノ述ベラレタ事ニハ、多少トモ食道外科ニ知識アル者デアレバ奇異ニ思ハレル點ガ少クナカツタ。

1) 先ヅ同教授ハ噴門癌トカ全胃切除ナドハ食道自個ノ癌腫ニ非ザルガ故ニ茲デハ述ベナイト云ハレタ。宿題ノ題目ハ食道外科デアル。サスレバ全胃切除後ノ食道空腸乃至食道十二指腸吻合術ハ食道外科デナイダラウカ。マシテ噴門癌ノ場合ニハ通常癌腫ハ食道下部ニ向ツテモ擴ツテ居リ、從ツテ噴門癌ノ切除ニアタツテハ食道下部5糎内外ノ切除ハ不可避ノモノデアル。之ガ食道外科デナイナラバ一體何デアラウカ。吾々が奇異ニ感ジタ第1ノ點ハコレデアル。

2) 京大外科ノ報告デハ噴門癌切除ノ例ガ非常ニ多數ヲ占メテキル。然ルニ瀨尾教授ノ報告デハ4例カ5例ニ過ギナカツタ。胸部食道癌切除十數例ニ對シテアマリニ少イ。食道癌ノ統計デハ斯ル事ハ絶對ニナイ筈デアル。京大外科ニハ普通ノ比率ニ於テ食道癌噴門癌患者ガ集リ、千葉ニハ特ニ噴門癌患者ガ少カツタノデアラウカ。ソレモ極メテ少數ノ例デアレバ斯ル事モアリ得ヤウガ、瀨尾外科ニハ確カ140例(???)ノ食道癌ヲ取扱ツテ居ラレタ筈デアル。現ニ瀨尾教授ノ癌腫ノ部位ヲ示シタ表ニハ食道下部ヨリ噴門部ニ亘ツテキルト思ハレルモノガ一番高率デアツタ様ニ思フ。

噴門癌ト普通ニ呼バレテキルモノハ、主トシテ噴門部ニ發生シ通常食道下部ニモ浸潤シテキル癌腫ノ事デアル。食道下部ニモ浸潤シテキル以上之ヲ強イテ食道癌ニ計入スレバサレヌ事モアルマイガ、普通ハソウシナイノデアル。『噴門癌ハ食道外科ニ無關係』ト云ハレタ先キノ言葉ト考ヘ合セテ見レバ、同教授ハ胃體ノ比較的上部ニアル癌腫ヲ凡テ噴門癌ト理解シテ居ラレルノデハアルマイカ。サスレバ無論食道外科トハ無關係デアツテ、80%ノ治癒率モ寧ロソノ低キヲ惜シム位デアル。マサカスル事モアルマイガ、奇異ニ感ズルマ、一ソウイフ邪推サエモ一寸頭ヲカスメテ起リ得ルノデアル。瀬尾教授ノ噴門癌治癒80%、日本外科學會々員ハ此レヲ信用スルヤ。

3) 瀬尾教授ハ『大澤サン、イヤ大澤博士ハ食道下部ノ癌腫ヲ主トシテ研究サレタガ、自分ハ食道全般、特ニ氣管分岐部ヲ中心トスル癌腫ヲ研究シタノデ、主點ガ互ニ相違シテ居リ大イニ安心シタ。ソシテ氣管分岐部ノ癌腫ノ手術ハ非常ニ六ヶ敷シイ云々』ト述ベラレタ。

然ルニ先ニモ述ベタ如ク同教授ノ癌腫部位ヲ示シタ表ニヨレバ氣管分岐部ヨリハ下部ニ於ケル癌腫ノ率ガ多カツタノデアル。從ツテ何故ニ特ニ氣管分岐部ノ癌腫云々ト云ハレタカー一寸不思議ナ氣ガシタ。

或ハソレトモ氣管分岐部ノ癌腫ノ切除ヲ多數ニ行ツタト云フ意味デアラウカ。演説ノ様子デハ表ニアル胸部食道癌トイフノハ何レモ氣管分岐部ノ癌ノ様ニ聞エタガ、ソレニシテモ奇異ニ思ハレルノハ、氣管分岐部ノ癌腫ニ所謂包埋法が行ハレ得ルデアラウカ。兎ニ角表ニヨレバ殆ンド全部ガ包埋法ニヨツテ行ツタトイフ事ニナツテキタ。マタ大ニ安心シタトハ何が爲デアルカー一向ワカラヌノデアル。

包埋法ノ原法タル Sauerbruch 法ハ食道最下部ノ小ナル腫瘍ニ對スル手術法トシテ提唱サレタモノデアツテ、氣管分岐部ニモ行ヒ得ルトハ Sauerbruch 自身云ツテキナイ。瀬尾教授ノ示サレタ「シエーマ」ニモ無論食道下部ノ腫瘍ノ場合ヲ假定シテ描カレテアツタ。氣管分岐部ノ腫瘍ヲ包埋スル爲ニハ、胃ハ氣管分岐部ヨリ更ニ 5—6 糎以上モ吊リ上ゲル必要ガアラウ。其程度ニ胃ヲ遊離移動セシムル事が一般ニ可能デアルカ否カハ暫ク別シテ、兎ニ角胃ノ大部分ガ胸腔内ニ移動スル事丈ケハ確カデアル。然ラバスル場合ノ營養ハ如何ニナルデアラウ。固ヨリ如何ニ瀬尾式ノ Kader 類似胃瘻法ガ胃壁ノ小部分デ足リルトイッテモ此場合ニ爲シ得ナイ事ハ確カデアラウガ、而モ同教授ハ『吾々ハ空腸瘻ハツクラナイ』ト云ハレルノデアル。更ニ此場合心臟ハ胃ニヨツテ著シク壓迫サレルト思フガ、術後ノ電氣心動圖デハ比較的ヨク恢復シテキル様ニ見受ケラレタ。色々考ヘテ見ルト矢張り胸部食道癌トイフノハ氣管分岐部ノモノデハナク下部ノモノラシイ。

ソレニ同教授ノ圖表ニハ氣管分岐部アタリノ癌腫切除ヲ目標トシタ様ナ別ノ術式モ見ラ

レタ。即チ食道ノ下斷端ヲ胃内ニ陷入セシメ上斷端ヲ頸部ニ引き出ス方法デアル。之ガ同教授ノ所謂包埋法デナイ事ハ明白ニ聽キ取ル事が出來タ。ソシテ此方法デ成功シタ實例ハ確カニ表ニハ見エナカツタ様ニ思フ。(或ハ1例ダケアツタカ?)。

サスレバ何ヲ以ツテ氣管分岐部ノ癌腫ヲ主ニ研究シタトイハレルノデアラウカ。同教授教室ヨリハ動物實驗ニ於テ、迷走神經兩側切斷ノ影響ヲ非常ニ詳細ニ研究サレタガ、氣管分岐部癌ニ於テハスル高位ノ兩側迷走神經切斷ノ影響ガ問題トナリ得ル故、ソレヲ以ツテ氣管分岐部癌腫ヲ特ニ研究シタト云ハレルノデアラウカ。

氣管分岐部食道癌ノ手術困難ナルハ今更瀬尾教授ノ説明ヲ俟ツ迄モナイ事デアル。從ツテ瀬尾教授手術例中ノ胸部食道癌ナルモノガ全部氣管分岐部ノ癌腫デアツテ、ソレガ表ニ示サレタ如ク50%ノ全治率ヲ示スモノデアレバ、誠ニ世界ノ驚異デアツテ正ニ人間業トハ思ハレナイノデアル。此一語デ此報告ノ裏が見エスク様デアル。食道下部癌腫ヲスラ解決シ得ズシテ一躍氣管分岐部癌腫ガ其様ニ全治スルモノデアラナラバ疾クノ昔ニ食道外科ハ解決シテ居タ筈デアル。數十年來血ノニジム様ナ努力ヲ捧ゲ來ツタ幾多ノ學者ノ業蹟ヲ知ツテ居ル者ハ餘リニ不合理ナ此全治率ヲ如何シテ信ジ得ラレヨウカ。50%, 80%ト云フ様ナコトガ若シ獨逸ニデモ傳ハツタラ今後日本外科カラノ報告ハ全部相手ニサレナクナルニ相違ナイ。

要之同教授ノ所謂胸部食道癌トハ氣管分岐部ノモノトハ思ハレナイ。而モ何故ニ之ヲ氣管分岐部ノモノナルカノ如ク云ハレルノデアラウカ。コレ吾々ノ最モ奇異ノ感ニ堪ヘザルトコロデアル。詳細ナル「プロトコル」ノ公表ヲ要求スル次第デアル。

4) 尙術式トシテノ包埋法ニツイテ一言シタイ。此方法ニハ必然的ニ高度ノ狹窄ヲ殘スモノト考ヘラレル、コノ點瀬尾教授モ認メラレタガ、唯同教授ハコノ狹窄ハ「ブジールング」ニヨツテ譯ナク除キ得ルト説カレタ。然シ果シテ「ブジールング」ニヨツテ除去シ得ルデアラウカ。一般ニ狹窄ヲ「ブジールング」ニヨツテ矯正スルノハ癰痕性狹窄デアル。斯ル場合ニ「ブジールング」ノ有効ナルハ言フ迄モナイ事デアル。然ルニ包埋法ノ場合ハコレト趣ヲ異ニスル。此場合ノ狹窄ハ所謂 Sporn ニ基クモノデアル。即チ狹窄部ノ壁ハ癰痕デハナク彈性ニ富ム食道及ビ胃壁ナルガ故ニ「ブジー」ヲ通ズルモ壁ハソノ彈性ニヨツテ通ジタ間ダケ伸張ハサレルデアラウガ、決シテ擴張ハサレナイノデアツテ、Sporn ハ依然トシテ除去サレルモノデハナイ。胃腸吻合ニ於テ Sporn 形成ノ爲ニ著シキ通過障礙ヲ來セル場合ニモ尙吻合部ハ容易ニ指ヲ通ジ得ル事實、慢性腸管重積症ニ於ケル狹窄症狀等ハコレト全然同一ノモノデアル。簡單ニ「ブジールング」ニヨツテ除去サレルト考ヘルノハ如何デアラウカ。少クトモ理論的ニハ此狹窄ハ保存的療法ニヨツテハ除去ノ途ナキモノト考ヘラレル。Witzel 式吻合法ヲ用ヒタ噴門癌切除例ニ於テ大澤助教授ハ其事實ヲ如實ニ

示シテ居ル。

先般歸朝サレタ金澤ノ石川教授ノ話デハ Sauerbruch 自身既ニ胃内套陷法ヲ行ツテ居ナイソウデアル。

5) 次ニ同教授ハ種々ノ縫合方法ニ就テ述ベラレタ。然シ何ヲ根柢トシテ斯ル説ヲナサレルカ吾々ハコレヲ知り得ナカツタ。同教授ハ人間ニツイテハ主トシテ包埋法ヲ行ツテ居ラレル。縫合吻合ニヨツテ胸部食道・食道或ハ食道・胃吻合ニ成功サレタ例ハナカツタ様ニ思フ。又特ニ縫合方法ニ關スル動物實驗モ示サレナカツタ。而モ同教授ハコレニツイテ一家ノ見ヲ示サレタ。何ヲ根柢トシテ云ハレタノカ、單ナル想像ニヨツテ云ハレタト批難サレテモ、少クトモアノ演説デハ致方アルマイト思フ。

6) 瀨尾教授ノ嵌頓セル義齒ヲ電氣ノニ灼キ切ツテ摘出スル方法ハ既ニ從來ヨリ知ラレテキル方法デアツテ、一應試ミニ見ルベキデハアラウガ、此方法萬能トイフ譯ニハ無論行クマイト思フ。恐ラク瀨尾教授ハ膀胱結石ニ對シテ Lithotripsie ニ限ルトハ云ハレマイ。膀胱結石ニ於ケル Sectio alta ト同様ノ意味ニ於テ大澤助教授ノ平壓開胸開腹術ニヨル雙手ノ摘出法ハ食道異物外科ニ於ケル劃期的ノ方法ト云ハネバナラス。

尙瀨尾教授ノ示サレタX線寫眞ニ義齒ヲ灼キ切ツタ後ニ撮ツタモノガアツタガ、兩方ノ Stück ガコレニヨツテ少シモ移動シテキナカツタノハ一寸奇異ニ感ゼラレタ。

7) 又瀨尾教授ハ手術後ノ「ドレナージ」ニ就テ述ベラレタ。胸腔或ハ縱隔竇ノ感染ガ瀨尾教授ノ所謂『オツカナイ』コトハ尤デハアルガ、京大外科デ全然「ドレナージ」ヲ行ハズシテ立派ナ成績ヲアゲテキルノニ比較スルト、少シク意氣地ガ無サ過ギルト思フ。尤モ瀨尾教授ハ食道手術後原則トシテ「ドレナージ」ヲ行ハレルノカ、特別ナ場合ニ限ツテ行ハレルノカハツクリシナカツタガ、特ニ「ドレナージ」ノ圖ヲ示シテ説明サレタリシタ所ヲ見ルト可ナリ之ニ重キヲ置イテ居ラレル様ニ見ウケラレタ。此點一般外科手術ノ今昔ヲ少シデモ聞キ知ツテキル者ニ『食道外科ヲ通ジテ吾々ニ示サレタル瀨尾教授ノ一般外科ハ未ダ草分けノ時期ニアル、換言スレバ未ダ幼稚デアル』トノ感想ヲ抱カシメナカツタトスレバ幸デアラウ。

8) 千葉ト東京デハ僅カ1時間ノ旅程ニ過ギナイ。旅費トテモ極メテ僅カナモノデアル。然ルニ臨床治癒例ノタヅノ1例ダニモ供覽サシテ貰ヘナカツタ事ハ誠ニ残念デアル。京都カラサヘ遙々諸手術全治者中カラ代表的ナ6名ノ患者ヲ東京ニ伴ツテ會員ニ供覽シタノデアルカラ、瀨尾教授ノ全治例ガアルナラバ其ノ半分デモ見セテ貰ヒタカツタ。之ハ恐ラク評者1人ノ感想デハナイデアラウ。或ハ既ニ全部ガ衰弱強クシテ何レモコレモ供覽シ得ナイ狀態ニナツテキタノデアラウカ。疑ハシキ事デアル。早く「プロトコル」ヲ見タイモノデアル。

9) 診斷方面ニ於テモ瀨尾教授ハ腹腔盈氣法ヲ以ツテ極メテ優秀ナル方法ナルカノ如ク云ハレタガ、之モ如何デアラウカ。癌腫ハ粘膜ヨリ發生スルガ故ニ、癌腫ニ於ケル變化ハ主トシテ粘膜側ニ著明ニ現レル。從ツテ癌腫ノX線診斷トシテ粘膜側カラノ造影法ヲ主トスベキハ當然デアル。此意味ニ於テ骨盤高位法ノ優秀ナルハ云フ迄モナイ。瀨尾教授ハ昔ハ骨盤高位法ヲ用ヒタガ今ハ用ヒナイト云ハレタ。然シ如何ナル缺點アルガ故ニ今ハ用ヒナイカニ就テハ一言モ述べラレナカツタ。恐ラク同教授得意ノ腹腔内盈氣法ト同時ニ行ヒ得ザルガ爲デアラウ。

吾々ハ日常幽門癌ニ對シテハ單ニ胃内ノ造影劑ニヨツテ診斷シ、ソレデ殆ンド不都合ヲ感ジナイノデアルカラ、噴門癌ニ對シテモ特ニ腹腔内盈氣法ノ必要ハナイト思フ。尙袋ヲ吞マセル方法ノ如キハ兒戲ニ類スルモノデアル。

10) 別室ニ京大外科側ト瀨尾外科側トノ標本ガ供覽サレタ。瀨尾教授ガ包埋法ヲ主トシテ行ハレテキル關係上證據物件デアル切除標本ノ見ラレナカツタ事ハ當然デアルガ、京大側ノ多數ノ標本ヲ見タ眼カラスルト『斯ウイフモノヲ切除シタゾ』ト云フ證據ノ見ラレナカツタ事ハ甚ダ物足りナイ感ジガシタ。剖檢標本ト犬ノ標本トデハ心細イコト夥シイ。近頃ノ論文ナラ如何ナル論文デモ標本ハ「スケッチ」デナク必ず寫眞版トシテ掲載シテアル。コレニハ『嘘偽リハナイゾ』トイフ學術的良心カラデアラウト思フ。斯ルー般ノ傾向カラ云ヘバ、包埋法ノ如キハヤツタ當人ヲ信用スル外ニ、切除シタトイフ證據モナケレバ、切除シタモノガ果シテ癌腫デアツタトイフ證據モナイノデアルカラ、甚ダ報告價值ニ乏シイト云ハネバナラス。或ハ學術的デナイトモ云ヒ得ヤウ。患者モ供覽セズ、標本モナイト來テハ夏ノ夜ノ夢ノ様デ學術的報告トシテハ甚ダ物足りナイ。

尙何人モ奇異ニ感ジタデアラウ事ハ電氣心動圖ヲ非常ニ多數陳ベテアツタ事デアル。無論食道外科ト心臟機能ト密接ナ關係ノアル事ハワカリ切ツタ事デアルガ、電氣心動圖モ今更珍シイモノデモナイシ、或ハ得意ノ業績カモ知レナイガ、アレ程業々シク陳ベ立テル必要モアルマイ。內科學會ノ人デモアレヲ見タラ恐ラク失笑シタデアラウト思フ。

11) 瀨尾教授ノ演說全體トシテノ感想ヲ云ヘバ放言のデ甚ダ明瞭ヲ缺點ガ多カツタ。事實眞當ニヤツタノカ、或ハヤツタラヨカラウト思フ想像デアルノカ、成功シタノカ、シナカツタノカ、演說ノ語句ニシテモ「プロトコル」ニシテモ何カー物挾ツタ様デドウモハツキリ吞ミ込メナイ點ガ多イ様ニ思ハレタ。過去ダカ、現在ダカ、將タ未來ダカ、一向判然シナカツタ。晝トモワカズ夜トモナクマルデ熱ニ浮カサレタ様ナ氣分デアツタ。食道外科ニ關シテ多少トモ知識ヲモツタモノデアレバ恐ラク何人モ斯ク感ジタデアラウト思フ。マルデ霞ヲ吞マサレタ様ナ心持デアル。モツト率直デ實質的デ責任ト眞實トガアツテ欲

シート注文スルノハ失禮デアラウカ。

× × × × ×
 × × × × ×

△宿題報告者ニハ一々關口會長ヨリノ謝辭ガアツタガ、從來ノ様ニ通り一遍ノ挨拶デナク演説ノ内容ニ亘ツタ註釋的ナ挨拶ヲサレタノハ非常ニ好イ印象ヲ與ヘタ。昭和2年京都デ開カレタ外科學會ノ時鳥瀉會長ガ普通演題デハアツタガ、小澤凱夫氏ノ『多發性化膿性筋炎』ノ演説ニ對シテ同ジク註釋的ノ挨拶ヲサレタ事ガアツタガ、斯ル事ハ非常ニ有益ナ事ト思フ。會長トシテ本邦外科學界ノ大家ヲ戴ク以上、會長ハ單ニ議事ノ進行ヲ司ル事務家タルノミデナク、モットモット演説ノ内容ニ亘ツテ學術的ナ批判的ナ發言ヲシテ欲シト思フ。殊ニ討論ナドノ場合ニハ會長ニ於テモ一言アツテ欲シモノデアル。

△宿題報告後三宅速博士獎學金授與式ガアツタ。近頃ハ運動競技ノ大會ナド決ツテ何々杯トカ優勝旗トカノ授與式ヲヤツテキル様デアルガ、若イ「スポーツマン」ノ心ヲ躍ラセルニハ至極ノ思付キデアル。又昔カラ小學校ヤ中學校ニハ褒狀ヤ賞品ノ授與式ガアツタ。『三宅博士獎學金授與式』モ是等ノ催ト似タ様ナ感ジデ凡ソ眞摯ナル學會ノ空氣トハソグワスオカシナモノデアツタ。立派ナ業績ヲ出シタ人ニ對シテ學會ノ名ニ於テ感謝スルトイフ意味デアレバ又別ダガ、獎學金シカモ授與式デハ甚ダ妙ナモノデアル。ムシロコンナモノハナイ方ガヨクハナイカ。獎學金ハアツテモ結構ダガスウイフ授與式トイフコトヲシナクトモ他ニ方法モアラウト思フ。

△最後ニ活動寫眞ノ映寫ガアツタガ、食道外科ノ寫眞ハ實ニヨカツタ。恐ラク外科手術ノ寫眞トシテハ世界の天下一品デアラウ。食道手術ノ如キ深イトコロノ細カナ操作ガヨクモアレ程迄明瞭ニ寫シ得ラレタト寧ロ驚嘆ニ値スル。我國第一流ノ「カメラマン」碧川道夫氏ノ撮影トハ云ヘ、全ク豫期以上ノ出來榮デアル。

平壓開胸術ニ對スル從來ノ認識不足ニ基ク種々ノ誤解モ此映畫ニヨツテ一掃サレ最早何人ニモ異議ハナイデアラウ。ソレノミデハナイ、從來其例ヲ見ザル Unicum ノ食道筋腫剔出ト噴門成形術トヲ併セ行ツテ而モ悠々成功シテキルコノ寫眞コソハマコトニ世界外科學界ノ驚異デアラウト思フ。噴門癌切除ノ寫眞ニシテモ同様デアル。之等ノ映畫ニヨツテ大澤助教授ノ演説ノ眞價ガ遍ク徹底シタデアラウ。患者モ標本モ供覧シナイトイフノハ極端ノ場合ダガ、今後ハ特ニ手術術式ニ關スル報告ニ於テハ患者標本ノミナラズ益々活動寫眞ノ利用サレル事ヲ希望スル。

△關口會長ガ閉會ノ辭ヲ述べ終ルト聽衆ノ大部分ハ委細カマハズドヤドヤト退場シ様トシタ、ソレヲ制シテ三宅名譽教授ガ鳥瀉教授ト共ニ聽衆ノ中カラ起立シ關口會長連日ノ勞ニ對シ會員ヲ代表シテ謝辭ヲ述べ且ツ日本外科學會ノ萬歲ト關口會長ノ萬歲トヲ唱ヘ會衆

之ニ和シタ。コレハイツノ學會デモスル儀禮デアルカラ會衆モヨクソレヲ心得テ居ツテコレガ濟マヌウチニ猥リニ退場シテ會場ヲサワガセヌ様ニ心掛ケルガヨイ。今後ノ學會ノ爲ニ之ヲ言ツテ置ク。

獨逸外科學會ノ有様ヲ嘗テ鳥瀉教授ニ聽イタガ、此ノ様ナ禮儀作法ハ實ニ正シイ。マタ閉會ニナツテモ宿題報告者ヲ取卷キ握手ヲ交換シテ眞底カラソノ成功ヲ祝シ勞ヲ犒フトイフ有様デ實ニウルハシイ、ツマリ學術ヲ尊重シ渴仰スル精神が強イカラデアル。其ノ光景ハ實ニ禮儀ト情味トニ充チテ居ルトノ事デアル。

日本デモ外形ダケデモヨロシイカラソレヲ眞似タイモノデアル。從ツテ學會ノ最後ノ時間ニハ外科學界ノ元老連モ出席シテ出來ルダケ學會ニモ會長ニモ敬意ヲ表スルガヨイ。日本外科學會員中ニハ此ノ様ナ心得方ヲ自覺シテ居ル人ハ少イ様デアルガ明年ノ學會カラ注意スルガヨイト思フ。妄評多罪（吐月橋）

第10回國際外科學會(1935年)

既ニ決定セル要件ハ次ノ如クデアル。

- 第1) 會長 v. Eiselsberg,
- 第2) 場所 Cairo,
- 第3) 宿題 投票ーテ4題ノ内3題ハ次ノ如ク決定,
 - 1) Chirurgie des glandes parathyroides (72票)
 - 2) Chirurgie du sympathique lombaire (60票)
 - 3) Chirurgie du colon (Cancer excepté) (54票)
 - 4) 追テ Comité International ニ依リ決定サレル筈。

第2宿題ハ日本ニ於テ始メテ行ハレ爾來多數ノ研究者ニ依リ顯多ナル業績ガ爲サレテキルカラ、適當ナ代表者ヲ送ツテ大ニ物ヲ言ハナクテハナルマイ。

儀部喜右衛門教授渡歐

來ル6月17日神戸出帆ノ照國丸ニテ、内科ノ松尾巖教授同伴、海外視察ノ爲渡歐ノ途ニツカレル。約6月ノ後、北米ヲ經テ、歸朝ノ豫定デアル。

外科教室主任

6月18日ヨリ鳥瀉教授ガ京都帝大醫學部外科教室主任ニ任ゼラレル。

獨逸ニ於ケル「コクチゲン」ノ知己

「コクチゲン」ノ純正學術上ノ基礎ヤ、實地應用上ノ効果ニ就テハ、日本ノ學界デモ次第

ニ之ヲ理解スル人が増加シテ來タ様デアルガ、獨逸ノ中デモ諒解スル人がボツボツ現レテ來タコトハ、眞理ノ爲ニ、マタ教室ノ爲ニ、慶賀スベキコトデアル。

伯林大學婦人科助手 Dr. K. Retzlaff 氏が、淋菌「コクチゲン」ノ効果ノ優秀ナルコトヲ 1932 年ノ Zentralblatt für Gynäkologie Nr. 1 ニ發表シテ、其ノ別冊ヲ鳥潟教授ヘ贈呈シテ來タニ對シ、同教授カラハ近著 Die Impedinerscheinung 一部ヲ贈ツタ。所ガ此程 Retzlaff 氏カラ次ノ様ナ私書ガ鳥潟教授ヘ寄セラレタ。

勿論双方ノ間ニハ一面識モ無ク、交友モ無ク、紹介者モ無ク、マタ何等ノ約束モ無イ、唯ダ單ニ學術上ノ共鳴ガアルバカリデアル。有朋自遠方來不亦悅乎ト言フノハ眞ニ此ノ様ナコトヲ意味スルノデアロウ。

此ノ様ナ事ガナクテ、全世界ノ反對ヤ、默殺ガ、何年間繼續シヨウトモ、鳥潟教授ハ針路ヲ變更セズニ不斷ノ航行ヲ續ケラレルデアロウ。ガ併シ教授門下ノ若い輩ニ向ツテハ、此ノ様ナ手紙ハ確カニ好個ノ激勵トナルデアロウ。茲ニ敢テ此ノ私書ヲ公開スノ所以デアル。

Berlin. d. 15. IV. 1932.

Hochverehrter Herr Professor!

Ich möchte Ihnen meinen besten Dank für freundliche Übersendung Ihres wertvollen Werkes über „die Impedinerscheinung“, aussprechen.

Das Studium Ihres Werkes hat mich vollends überzeugt, dass wir bisher bei der Herstellung von Impfstoffen auf falschem Wege waren. Die Erfahrungen, die ich bisher mit dem Gonokokkenkocktigen sammeln konnte, sind die denkbar besten. Dieser Impfstoff ist der besten Autovaccine weit überlegen. Ich bin jetzt mit der Prüfung eines Coliimpfstoffes, der nach denselben Prinzipien wie der neue Gonokokkenimpfstoff hergestellt ist, beschäftigt.

Ich möchte Ihnen nochmals meinen besten Dank aussprechen.

Mit vorzüglicher Hochachtung

Ihr ganz ergebener

Konrad Retzlaff.

附記 淋菌「コクチゲン」ノ優秀ナコトヲ認識シタ人ハ Retzlaff 氏以前ニモ Wolfenstein 及ビ Pieper 氏ガアル。Pieper 氏ハ 1930 年 Kopenhagen ニ於ケル第 8 回國際皮膚病、梅毒學會デモ淋菌「コクチゲン」ガ從來ノモノヨリモ無毒デ且ツ効果ノ優ツテ居ルコトヲ報告シテ居ル。

第34回近畿外科學會

昭和7年6月12日(日曜日)午前10時ヨリ名古屋醫科大學圖書館樓上大講堂ニ於テ開催サル、ニ付其演題申込ハ當番幹事名古屋市民病院外科伊藤肇博士宛 5月31日迄ニ送附サレタキ由。同學會ニ於ケル演説ノ抄録ハ迫テ本誌上ニ掲載ノ豫定デアル。

謹弔 次記二氏御逝去ノ報ヲ受ク。

吉 富 又 平 君 五月四日

金 武 良 夫 君 五月廿日

謹ンデ弔意ヲ表ス。